

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

「実践、保護者面談のポイント」

次年度の就学に向けて、一年の中で保護者が最も悩む時期を迎えました。そこで、保護者面談で配慮していることをこっそり紹介します。

1 面談中の保護者の様子

- ・一方的に話すことが多い。
- ・一人で悩みを抱えていることが多い。
- ・気持ちが揺れ動いている。
- ・自分を責める傾向がある。
- ・特性を受け入れたくない気持ちが強い。
- ・よい評価にすがりたい。
- ・夫婦であっても考えが違ふことが多い。
- ・たくさんの情報を知りたがっている。
- ・後押ししてくれる人、不安を分かち合ってくれる人を強く求めている。

2 面談の具体例

(1) 一方的に話す保護者（聴くだけでスッキリするケースが多い）

- ・面談の終了時刻やねらいを確認した上でスタートする。
- ・能動的に思いを聴きながら、保護者の表情や動作に合わせる。
- ・伝わっていることが実感できるように、頷いたり、相づちを入れたりする。
- ・話の方向がずれそうになったときは、キーワードを復唱して軌道修正を図る。
- ・表情が和らいだときを見逃さずに、面談のまとめに入る。



(2) 気になる特性を受け入れたくない保護者（受容には時間がかかる）

- ・子どもの特性を「理解したくない」「理解できていない」「理解に差がある」のかを見極めながら、言葉を選んで進める。
- ・検査結果があれば、数値の意味をグラフや図を基に、子どもの発達水準を詳しく説明する。（数字には説得力がある）
- ・進路先や就学先と結び付けて話す。

※園や学校では、子どもの気になる様子について面談等を通して伝え続けてほしい。その時に受容できなくても、納得できる時が必ず訪れる。

(3) 就学先で悩んでいる保護者（なるべく両親に相談してもらう）

- ・保護者（夫婦、同居している家族等）の希望を否定せず聴き出す。
- ・イラスト入りの資料を活用し、就学先決定の流れや就学先の選択肢について説明する。
- ・実際に就学先の教育相談及び学校見学を勧める。
- ・結論を急がず期間を設けて次回の面談日を確認する。
- ・親の願いよりも、我が子が自分らしく学べる場、よさを発揮できる場を選択する大切さを伝える。（親の願いを優先しているケースがある！）



とれたて直送便



「面談は、笑顔とユーモアを忘れずに」

検査報告では、保護者の気持ちを和らげるために、最初に子どものよいところを伝えます。就学相談では、保護者の悩みを軽減するために、具体的な選択肢を提示します。そして、保護者面談で心掛けていることは、話しやすい雰囲気づくりです。笑顔をつくるだけで、保護者の表情が明るくなります。ユーモアを交えて話すと、保護者の心が開きます。保護者に希望を与え、笑顔で帰ってもらう面談、保護者が答えを見付ける面談を目指しています。